

総合診療科実習振り返りにおけるSignificant Event Illustration の試み

高屋敷明由美¹、片岡義裕¹、前野貴美¹、春田淳志¹、横谷省治¹、阪本直人¹、荒牧まいえ¹、
浜野淳¹、吉本尚¹、小曾根早知子¹、山本由布¹、後藤亮平²、前野哲博¹
1 筑波大学 総合診療科グループ 2 筑波大学医学医療系



背景

筑波大学医学群医学類では、2016年度よりクリニカル・クラークシップがコアの診療科の実習を4週間とするなどの大幅なカリキュラムの変更があり、後半の時期に、必修の総合診療科実習を大幅に改訂して導入した。その中で、実習最終日にSignificant Event Illustration(以下、SEI)というプログラムを導入して、学生が本実習で学んだことを目標に立ち返って振り返り、言語化し、それを共有する機会になったので、この取り組みについて報告する。

総合診療科実習の概要

- ゴール 1) 場による医療の違いを踏まえた総合診療医の専門性の理解
2) 地域のヘルスケアシステム全体からみた住民・患者・家族の健康問題の把握
3) 臨床推論能力の修得
- 実習時期：5年次10月～6年次5月（1タームあたり14～15人×各4週、計8ターム）
- 実習スケジュール
- ・4週初日：大学にてオリエンテーション 4週最終日：大学にて総括
 - ・筑波大学付属病院総合診療科1週間（必修）と、茨城県内の診療所(2～3週)・中核病院総合診療科（0～1週）を組み入れている。（表1、図1 参照）

実習内容：外来における医療面接（大学総診、診療所）や中核病院では主治医チームの一員となって診療に参加する実習を行う他、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ同行などの在宅ケアや多職種業務の同行、地域を歩き住民にインタビューを行い地域ニーズを探る地域診断実習も行っている。

Significant Event Illustration¹⁾ の概要

- ・ 最終日の午後に、4週間の実習を振り返り、「**実習の学びにつながった最も印象に残った出来事**」について、その場面をイラストで表現する
- ・ 喜怒哀楽、驚き、感動など感情が動いた出来事を取りあげる
- ・ 3～4人グループで円卓型用紙1枚に同時に描く
- ・ 上手い・上手くないは気にしない！イラストで成績はつけない
- ・ 発表会において、イラストを見せながら出来事を紹介（1人3分発表＋質疑）
 - ① どんな出来事か？
 - ② その場面でどんなことを感じたか、考えたか？
 - ③ 今振り返って、その出来事から学んだこと/得たものは何か？
 - ④ 質問・フィードバック（学生から、教員から）

表1 総合診療科実習ローテーションパターン				
学生No	第1週	第2週	第3週	第4週
1	大学総診	神栖	笠間	笠間
2	大学総診	神栖	笠間	笠間
3	水戸協同	神栖	大森	大学総診
4	大学総診	神栖	大森	生きいき
5	宮田	大学総診	神栖	緩和ケア
6	利根町	大学総診	神栖	北茨城
7	大学総診	TMC	神栖	北茨城
8	TMC	大学総診	利根町	神栖
9	大森	利根町	大学総診	神栖
10	大森	水戸協同	大学総診	神栖
11	大和	大和	大学総診	神栖
12	大和	大和	神栖	大学総診
13	北茨城	北茨城	TMC	大学総診
14	北茨城	北茨城	大学総診	TMC
15	北茨城	北茨城	宮田	大学総診

TMC：筑波メディカルセンター病院

図1 総合診療科実習施設一覧

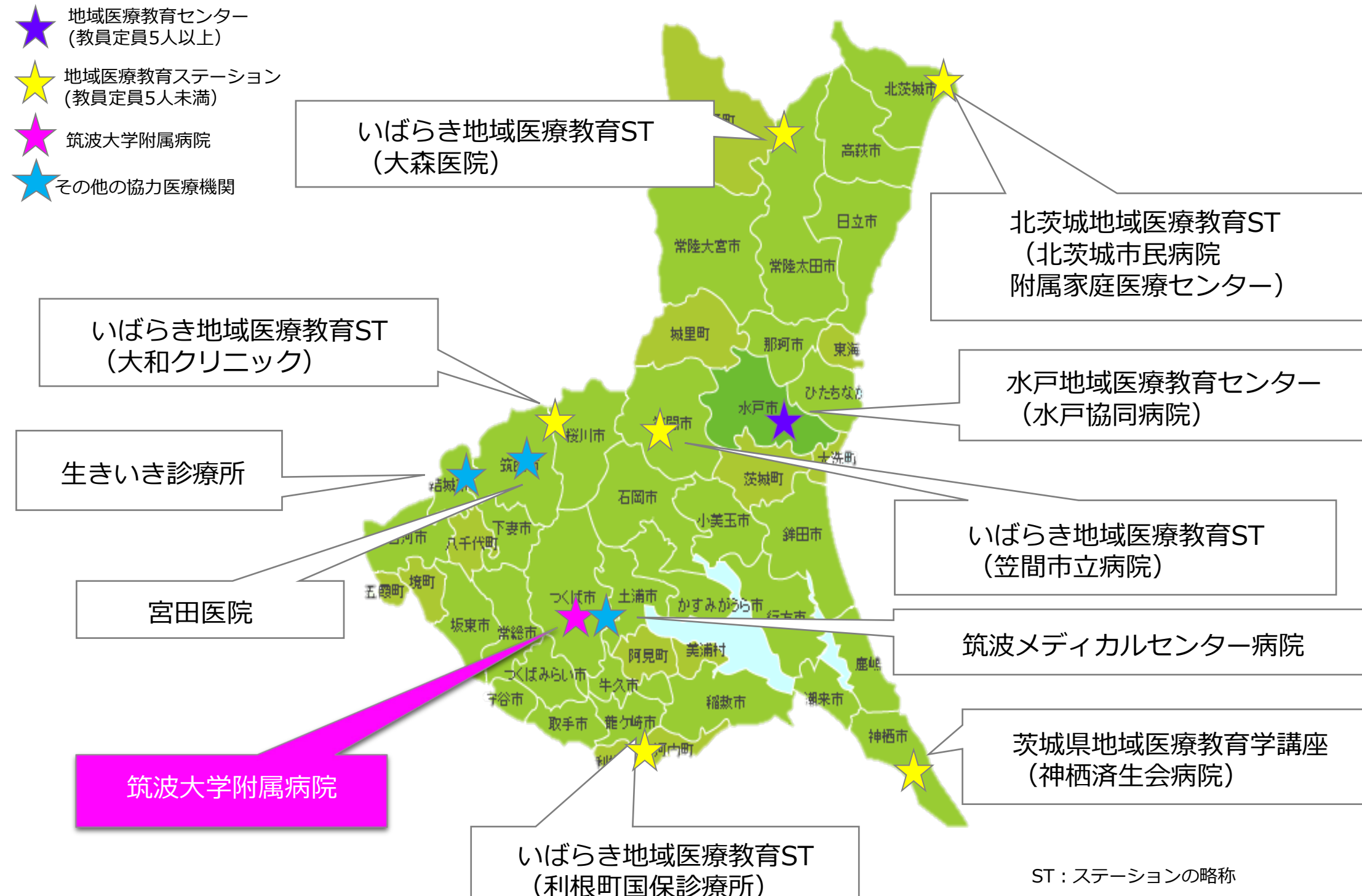


写真2-1 学生の発表例1
「〇〇クリニックの訪問診療を受けるALSの方が電動車椅子に試乗するために遠方の車のディーラーまで行きたがっていた。プライマリ・ケアのACCCCに則って多職種が話し合い迅速に動く現場の様子が印象的だった。」



写真2-2 学生の発表例2
「〇〇病院の訪問リハビリで100歳の女性が切り絵をする姿を見た。作品の美しさとその女性の力に感動、同時にリハビリでこんなことをするのだと驚いた。」



写真1-1,1-2 S E I 発表会の様子

SEIで取り上げられたテーマ

- ・在宅患者さんや地域住民の姿など地域のフィールドにおけるエピソードが目立っていた。この他に地域を支える医師の姿と存在感や、院内外が多職種間の信頼関係の他、看取りの場面や解決が難しい臨床現場のリアルなエピソードも取り上げられていた。
- ・これらのテーマには、上述の実習のゴール2) 内で設定している個別目標の「地域で暮らす住民・患者・家族の姿をイメージできる」「地域において、人々の健康に影響を与える地域の生活の特徴や文化を挙げることができる」などに合致するものが多数みられた。

SEIに参加した総合診療科スタッフからの印象

- ・個人の発表やレポート記載では、学んだことの言語化が不得手な学生がいる。SEIにより印象に残ったことを想起し、イラストで表してから発表することで、感情の動きとともに、気づいたことや学んだことの意識化・言語化が促される印象があった。
- ・イラストを通して発表する方法は、学生が個々の施設で学んだことを楽しく共有する機会になるだけでなく、描画中のコミュニケーションが生まれ、発表会へ能動的に参加する効果もあったと思われる。
- ・SEIは、地域における実習の振り返りの方法の1つとして有用と思われた。

参考文献：1) 桐ヶ谷大淳, 松田俊太郎, 早川学, 吉村学. 地域医療実習で最も印象に残ったことをイラストにしてみたら“Significant Event Illustration”. 医学教育 2017; 48 suppl; 173.